「指示詞＋名詞」構文によるマイナス的感情・評価表現の考察
—間主観性の観点から—

陳 曦
牛 迎春

DOI: 10.18999/stul.33.95

1．はじめに

日本語の「そんな」や中国語“这种/那种”は、名詞を修飾し、指示対象に対する話し手の感情・評価を表す場合がある。陈曦・牛迎春（2018b:93-95）は例（1）のような中日両言語におけるずれの現象を詳しく検討したうえで、その要因が構文自体の使用制約の違い、および中日指示詞の認知基準の違いが強く相関していると説明している。しかし、例（1c）においては「そんな梶」が“梶的这种（态度）”と対応することができるのかは、まだ明らかにされていない。

(1) a. 杏子はそんな梶が好きだった。
　b. 杏子喜欢｛*这种梶/*那种梶｝。
　c. 杏子喜欢梶的这种态度。

（陈曦・牛迎春 2018b:79）

これは統語論的な観点からみたものであるが、構文の意味は常に既知成分や内部構造関係、他の構文から判断されることはできない。すなわち、文やテキスト範疇からみれば、陈曦・牛迎春(2018b)の説明では解釈力が弱くなるのが事実である。

(2) a. 普通のものが{そんな発狂者/発狂者}を見たって、それほど深い同情は起らないね。
　b. 一般的人见到{这种疯子/疯子}，是不会产生很深的同情心的。

（同 2018b:90）

(3) a. 変でしょう、{そんな人/？その人/*人}にウイスキーなんて！上げるならお金の方がいいでしょう。

b. 那不合适吧{？那种人/？那个人/*人}送什么威士忌！送的话，就送钱好了。

（同 2018b:79）

例えば、例（2）（3）においてマイナス的な感情・評価意味が読み取れる場合、指示詞の許容度はそれぞれ異なっている。例（2）の場合、「そんな」や“这种”を削除されるとしても、文全体のマイナス的な評価意味は変わらない。[1]しかし、例（3）の場合、「そんな」や“那种”を「その」や“那个”に変換すれならば不自然となり、さらに削除する場合も文自体が不成立となる。

そこで、本研究では間主観性の観点から、指示詞「そんな」と“这种/那种”を含むマイナス的な感情・評価構文を考察したい。

2. 先行研究

「そんな」“这种/那种”の対応に関する研究は主に中日両言語におけるその指示詞の枠組みで進んできた。益岡・田窪（1992:39）は「そんな」の系列・「そのような」の系列・「そういう（そういった）」の系列は、主に指し示された事物と同じ属性を持つ事物の集合を表すと指摘している。朱德熙（1982:87-89）、吕叔湘（1985:228-229）、刘月华等（2001:82）は“这么”の系列・“这样”の系列・“这么样”の系列に関して、物事の属性・方式・程度を指示・代用すると述べている。しかし、“这种”系列について、多くの研究では指示詞系列に所属していない。吕叔湘（1985:232-237）は指示詞の複数形式“这些”系列を考察する際、“这些=这种”の“这个以及类此的（筆者訳:「これだ！」および「このように類的なもの」）”用法を用いている。

中国語“这种/那种”に関する研究は、近年中国学者の間で注目されてきた（毕永峨 2007，汪化云 2015，殷志平 2019 など）。しかし、いずれも文法位置の面からいくつかの構文機能を検討する研究であり、感情・評価的な意味が一切触れていない。その一方、多くの研究では指示詞を含む“你这（个）NP”構文（“你这个白痴（このばか！）”）はマイナス的な感情・評価意味傾向の構文であると指摘している（张新华 2005，尧春荣 2016，胡清国、高倩艺

[1] 評価対象はその上位概念の範疇に属する変化がある。

2018 など）。なぜこの構文から聞き手へのマイナス的な感情評価意味が読み取れるのであろうか。研究者によってその解釈は異なっており、これまで一致していない。胡清国、高倩艺（2018:47-53）は認知参照点理論に基づき、フレーズ面とトピック面に分けてその構文から読み取れるマイナス的な感情評価意味にある要因を分析した。さらに、“你这（个）NP”構文は文法化している構文だが、まだ完全に定まっていないという。「文脈融合」および「間主観性」はその構文の文法化が誘因となるわけである。

肖海娜（2017:95-107）は日中対照観点から、指示詞を含むマイナス評価構文（“你这个老顽固（お父さんの石頭！）”）を検討したうえ、日本語と中国語におけるマイナス評価構文の特徴が明らかにされた。つまり、日本語マイナス評価構文は話し手自身の感情表出–「表出性」に着目した構文であるのに対し、中国語マイナス評価構文は話し手自身の感情表出を示す以外に、聞き手目当てに感情を述べる意図–「伝達性」がある。なぜ日本語と中国語のマイナス評価構文がこのような相違を生じさせるのか。肖海娜（2017）は「呼称名詞や指示詞の機能の違い」にあると説明している。しかし、陈曦・牛迎春（2018b）と同様に、意味論的な観点からの解釈も説得力が弱いといえる。冒頭の例（2）（3）から生まれた疑問はまだ残されている。

そこで、本研究はマイナス的な感情・評価構文を検討対象とし、間主観性の観点からそのマイナス的な感情・評価意味が生じさせた仕組みを分析することを試みる。

3. 間主観性

「間主観性」とは、「自然言語が、その構造と通常の働き方の中に言語行為者による聞き手の態度・信念。とりわけ、聞き手の「面子」（face）もしくは「自己イメージ」（self-image）の表出に備えているさま」（Traugott 2003:33）である。Traugott＆Dsher（2002:23）によると、「間主観性」表現は「人称指示語が明確化されること、聞き手（読者）への共同注意を表すマーカーが付加すること、言外の意味が含意すること」という三つの特徴がある。つまり、言語コミュニケーションにおいては、人称代名詞、ポライトネスマーカー（敬語、ヘッジ、モダリティなど）、会話ストラテジーマーカー（挿入語、談話マーカー、評価副詞など）を使用することによって話し手の間主観性を実現させようとしている。

(4) a.「だめ、お父さま、そんな格好で」

b. “不行，爸爸，瞧您这身！”

（井上靖,『あした来る人』）

例（4）では「お父さま（您）」は二人称代名詞であるほか、敬語でもあるため、間主観性マーカーとして、聞き手への共同注意が表されている。それに、「そんな格好で（您这身）」を文末に倒置させることによって、その間主観性の度合いをさらに際立たせている。

「間主観性」の特徴としては「聞き手へ関心を持つ」ということである。具体的にいえば、「聞き手の反感や不快感を引き起こすのか？」「聞き手の面子を脅かしたり、社会イメージを損ねたりするのか？」「聞き手が話している内容の意味を正確に理解してくれるのか？」「聞き手と共有知識を持つのか？」など、話し手は聞き手へのこれらの配慮をしながら、話題や話し方を変えていく。話し手および聞き手両方の関係を保つために、言葉のコミュニケーションを円滑にするのが目的である（丁健 2019:345）。

本研究では北京日本語センターが開発した『中日対訳コーパス』（2002, 2003 版）をデータベースとし、属性を表す指示詞「そんな」の系列、また“这种/那种”系列を調査対象の指示詞にし、間主観性の観点から分析していく。なお、本研究は議論の混乱を避けるため、特殊な用法と制約を持つ「こんな」「あんな」を除き、考察対象を「そんな」に統一したいと考える。そのため、「コ」系・「ア」系指示詞は考察の対象外とすることを予め断っておきたい。

4. 指示詞を含むマイナス的な評価構文の中日考察

感情・評価的な意味が読み取れるのかによって、指示詞を含む構文は「評価なし構文」と「評価構文」に分けられる。その評価意味の相違からみれば、「評価構文」はおよそ「マイナス評価構文」と「プラス評価」が取り上げられる。本研究は主に「マイナス評価構文」を中心に分析していく。マイナス評価構文は例（2）のような修飾される名詞句自体が低評価をもつもの、例（3）のような名詞句自体は低評価ではないが、後の命題でそれが否定され、命題全体としてはマイナス評価になっているもの、という2種類である（中俣 2010:428）。

(5) a. 双人床一定要弹簧软垫、两边上人的那种，即便够不上正经八百的“席梦思”，总也不能要她哥哥姐姐家里还在耐心使用的那号光板床。

b. ダブルベッドは、やわらかいマットのあるものを主張した。たとえ本物のジーメンスでなくてもいい、とにかく兄や姉の家でいまでもまだ使っているような板張りのベッドではいけなかった。

（劉心武, 《钟鼓楼》）

(6) a. 尿毒症という言葉も意味も私には解らなかった。この前の冬休みに国で医者と会見した時に、私はそんな術語をまるで聞かなかった。

b. 对于“尿毒症”这个名词和它的意义，我是莫名其妙的。上回寒假中我在乡下会见医生的时候，一次都没有听到这样的术语。

（夏目漱石,『こころ』）

「指示詞を含むマイナス評価構文」に関する研究では、よく例(2)(3)のように話し手のマイナス的な感情・評価意味がはっきり読み取れる場合を中心に考察している。しかし、例(5)(6)のような話し手が客観的な事実（“双人床”、「尿毒症という言葉」を指している場合など）を述べる際の「評価なし構文」場合、文のマイナス的な意味合いがみられるのかについて触れる研究はまだ少ない。

殷志平(2019)は“这种/那种”を考察対象とし、“这种/那种”の文法位置は名詞性・動詞性成分に前置することから後置するへの変化現象を考察している。例えば、例(5)のように、元々“那种双人床一定要弹簧软垫、两边上人的”の“那种”を後置する場合、“双人床一定要弹簧软垫、两边上人的那种”となる。

(7) a. 你是公务员了不起阿！难不成找你办事前还要先去鸭笼挑一个 A 货供你快活阿！去你麻痹！你是我见到世界上身材最平的女人..你不是飞机场..你简直就是盆地..下雨天还会积水的那种 ！

b. 每个人都有自己的特点,性格和个性,那样才会美好.所以你一定要在年轻的时候去想一想,自己要做怎样的女人,自己想成为怎样的女人,是美好灿烂的那种,还是冷艳的那种,其实都可以.每种女人都有人爱。

（Weibo）[2]

[2] 中国大数据与语言教育研究所が開発した BCC コーパスによる検索するデータである。

現代中国語の口語、特に例（7）のような会話性の場合ではよくそのような特殊的な現象がみられる。これらの文より、会話の性質を持っていることがわかる。例えば、例（7）では第二人称代名詞「你（君）」が含まれており、「私—君」の擬似会話の性質を感じられる。さらに、例（7a）では話し手が聞き手へ強い関心（マイナス的な感情・評価）を寄せている一方、例(7b)では話し手が憧れている第三者の誰かを評価対象としており、聞き手への共同注意が読み取れる。

中俣（2016:117-119）は名詞を修飾するフィラー「そんな感じ、そんな風、そんな気」などの場合、よくニュートラルな指示表現として機能するが、低程度の意味も否定的な意味も一切もたないと主張している。「そんな感じ」が相手の発言や眼前の状態など、ただ1つの感覚を支持することが半ば習慣化しているため、低程度にならないと説明している。しかし、中俣もまた文脈から低程度性が読み取れると述べている。なぜか構文自体は低程度にならないと言い、また文脈から程度性が読み取れるのか疑問がでてくる。中俣（2016）からの解釈では明らかにされていないといえる。

「そんな」“这种/那种”を含む「評価なし構文」では、構文自体が感情・評価が読み取ることができないといえ、テキストレベルにおいてマイナス的な感情評価があると考えられる。例えば、“那种”「そんな」を含む指示詞構文自体は「評価なし構文」であるというものの、例（5）（6）文全体からみると、“即便够不上…总也不能要”のような対比的な意味合いと共起する（他の対象との比較から心理的な低程度評価が表される）か、「まるで聞かなかった」のような否定的な意味と共起するかの場合がよくあると考察される。

(8) a. その店の筋を通ると、小さい店には客がいっぱいつまっているのが見えた。脂の焼けるにおいが鋪道にまで流れ、店内には脂の小さい粒子が一面に飛び散っている、そんな感じだった。杏子はその店の前を通ったが、もちろんそこへはいって行く気持はなかった。もともとタクシーに乗り込む時から、克平をカガヨシに訪ねて行く気持は少しも持っていなかった。ただどこへも行き場のない気持だったので、タクシーをここまで走らせてみたまでのことである。

b. 经过店门时，见小店里满屋子是人。烤肉的味道一直飘到街上。令人觉得店里似乎到处贱了微小的肉粒子。杏子从店前走过，当然不想进去。从上车时开始，她就根本没有去烤鸡店寻找克平的念头。所以乘车到此，不过是因为一时觉得无处可去而已。

（井上靖,『あした来る人』）

さらに、例(8)の場合、「そんな感じ」の前後文脈から、話し手が指示対象に無関心が感じられる。それもマイナス的な評価と思われるが、評価の度合いがより高いとは言えない。同じくマイナス的な感情・評価的な意味が読み取れるといっても、その評価の度合いも場合によって異なっている。

以上からみると、「評価なし構文」自体が感情・評価的な意味がなくても、文全体がおよそマイナス的な感情であると読み取れる。しかし、感情・評価のマイナス度合いが高いとは言えない。感情・評価的構文はおもに、文法位置の変化や他の評価的な成分（評価性副詞、評価性表現など）との共起という傾向で考察される。文法位置の変化であるかは、文の会話性の程度に影響を及ぼすといえる。また、如何なる評価成分に付加するのか、文の評価意味の変化と大きく関わっている。

(9) a. 杏子はそんな梶が好きだった。
b. 杏子喜欢｛*这种梶/*那种梶｝。
c. 杏子喜欢梶的这种态度。

（例(1)の再掲）

例えば、例(9)の場合、評価性のある成分「好き」が含まれる場合、中国語では文法位置の変化が必要とされる。指示詞を含む「評価なし」構文について、指示詞の使用特徴のため、文法位置の変化と評価的な成分の間でなんらかの関係があると推測される。

陈曦,牛迎春(2018a)は認知言語学の観点から、中日両言語の指示詞構文の語用特徴を考察した結果、両言語において構文から主観性を読み取るが、認知主体を指示対象として把握する基準や認知構造が異なるため、語用的傾向で相違がみられる。その傾向は指示詞の認知構造が大きくかかわっている。中日両言語の指示語表現は非常に異なるタイプの主観性が表出しており、それぞれの言語は異なるダイクシス構造を持つといえる。すなわち、日本語の指示詞は「場へ位置づけという現場志向が強い」である一方、中国語の指示詞は「談話的、抽象的志向が強い」である（新村ら 2012:357-328）。

したがって、同じ場合においても、「梶」という人物を指示対象として指示詞を用いるとき、日本語では例(9a)のように直接的にその場へ位置付けて話し手の態度を表すのが自然

である。その一方、中国語の場合は指示詞の「談話的、抽象的」制約または指示詞を含む構文の感情・評価のニュアンスの制約のため、その文の許容度も場合によって異なっている。

「そんな」“这种/那种”を含む感情・評価構文は評価の対象が現場にいるか、現場にいないかによって分けられる。既に分析してきた用例より、現場にいない評価対象が多いと考察される。

(10) a. この弟は学校で、おれに代数と算術を教わる至って出来のわるい子だ。

b. 他这个弟弟，我在学校里教他代数和算术，成绩很差。

（夏目漱石,『坊ちゃん』）

(11) a. 丑松が根津村の学校へ通うようになってからは、もう普通の児童で、誰もこの可憐な新入生を穢多の子と思うものはなかったのである。

b. 丑松在根津村小学读书时,跟一般孩子一样,谁也没有把他这个可怜的新学生看成是秽多的儿子。

（島崎藤村,『破戒』）

しかし、マイナス的な感情評価が読み取れる指示詞構文は「そんな」“这种/那种”に限らない。例（10）（11）のように、「この」“这个”を含む指示詞構文も取り上げられる。さらに、評価対象が現場にいる場合も存在する。現場用法の場合、中日両言語において、人称代名詞をマーカーする制約が考察される。また、中国語の指示詞の形変化も多様となっている。

(12) a. 瞧你这个人，跟你说正经的，你老闹着玩儿。

b. おめえつう男は、ひとがせっかく真面目に話してんのに、すぐふざけて。

（浩然, 《金光大道》）

(13) a. だめ、お父さま、そんな格好で！

b. 不行，爸爸，瞧您这身！

（例（4）を再掲）

(14) a. 阿Ｑ，你这浑小子！你说我是你的本家么？

b. 阿Q、このバカ野郎!お前、わしのことをお前の一族といったそうだな？

（魯迅, 《吶喊》）

(15) a. そんな人間が、教科書のことに余計な容喙する資格はない。

b. 你们这种人对教科书没有资格多嘴。

（井伏鱒二,『黒い雨』）

(16) a. おれは教頭に向って、まだ誰にも話さないが、これから山嵐と談判する積だと云ったら、赤シャツは大に狼狽して、君そんな無法な事をしちゃ困る。僕は堀田君の事に就いて、別段君に何も明言した覚えはないんだから――君がもしここで乱暴を働いてくれると、僕は非常に迷惑する。君は学校に騒動を起す積りで来たんじゃなかろうと妙に常識をはずれた質問をするから、当り前です、月給をもらったり、騒動を起したりしちゃ、学校の方でも困るでしょうと云った。

b. 我对教务主任说："我没有告诉任何人，不过我这就同豪猪谈判。"红衬衫大为狼狈，他说："你怎么能这样乱来？关于堀田君，我没有对你明明白白讲过他什么。你要是一味地胡闹，我是吃不消的。想来你来这里不是专门为了闹学潮的吧？"这家伙竟然提出了这样毫无常识的问题来。我说："当然罗，领了薪水再闹乱子，学校也要受累啊。"

（夏目漱石,『坊ちゃん』）

例えば、例（12）～例（13）の評価対象はいずれも現場に存在している。日本語の指示詞は相変わらず「そんな」「この」であるが、中国語の指示詞は"这、这个、这样、这种"などが取り上げられる。

構文の形式違いのほか、語用的制約によって、その形も許容度は変化していく。日本語では、例（13）のように、「そんな」はよく目上の人に対して用いられ（中俣 2016:120）、聞き手への敬意が感じれる。その一方、例（14）のように、「この」は目下の人や、日常会話でよく用いる。中国語では、指示詞の形式においてそのような厳しい制約はないと考えられる。

5. おわりに

本研究は「そんな」"这种/那种"を考察対象とし、間主観性の観点から、中日両言語における指示詞を含むマイナス評価構文を考察してきた。なお、分析の結果としては次のとおりである。

1）「評価なし構文」自体に感情・評価的な意味がなくても、文全体でおよそマイナス的な感情であると読み取れる。しかし、感情・評価のマイナス度合いは高いとは言えない。
2）「マイナス評価構文」は現場用法であるか非現場用法であるかで、その使用制約が大きく異なる。

「間主観性」言語コミュニケーション機能は態度型（attitudinal）、応答型（responsive）、テキスト型（textual）の三類に分けられている（Ghesquière 2014）。中日両言語における指示詞構文がいかなる類型に属するのか。その使用制約と大きくかかわっていると考えられるため、今後の課題としたい。

［参考文献］

[1] 朱德熙. 语法讲义[M]. 北京:商务印书馆, 1982.
[2] 吕叔湘. 近代汉语指代词(江蓝生补)[M]. 北京:学林出版社, 1985.
[3] 益岡隆志, 田窪行則. 基礎日本語文法(改定版)[M]. 東京:くろしお出版, 1992.
[4] 刘月华, 潘文娱, 故韩. 实用现代汉语语法(增订本)[M]. 北京:商务印书馆, 2001.
[5] Traugott,E,C. & Dasher,R.B. *Regularity in Semantic Change* [M]. Cambridge:Cambridge University Press, 2002.
[6] Traugott,E,C. From Subjectification to Intersubjectification[A]. R.Hickey(ed.).*Motives for Lauguage Change* [C], Cambridge: Cambridge University Press, 2003.
[7] 张新华. “你这个 NP!”的表达功能研究[J]. 世界汉语教学(04), 2005:79-84.
[8] 毕永峨. 远指词“那”词串在台湾口语中的词汇化与习语化[J]. 当代语言学(02), 2007:128-138.
[9] 中俣尚己. 「そんな」や「なんか」はなぜ低評価に偏るか？—経験基盤的ヒエラルキー構造からの説明[J]. 日本認知学会論文集(10), 2010:427-437.
[10] 新村朋美, 单娜, 鄭若曦, ハヤシブレンダ. 日本語・中国語・英語の指示語表現にみるダイクシス構造の違い[J]. 日本認知言語学会論集(12), 2012:349-361.
[11] Ghesquière, Lobke. *The Directionality of (Inter) Subjectification in the English Noun Phrase: Pathways of Change*[M]. Berlin: De Gruyter Mouton. 2014.
[12] 汪化云. 说“X 的那种” [J]. 语言教学与研究(01), 2015:88-96.

[13] 中俣尚己. 日本語に潜む程度表現[C]. 庵功雄・佐藤琢三・中俣尚己（編），日本語文法研究のフロンティア[A], 東京:くろしお出版, 2016.

[14] 尧春荣. “你这(个)+NP”的负面评价功能及成因[J]. 湖南科技学院学报(08), 2016: 145-147.

[15] 肖海娜. 日本語と中国語における名詞句の意味機能に関する対照研究[D]. 神戸:神戸外国語大学博士論文, 2017.

[16] 胡清国, 高倩艺. 认知参照点与“你这(个)NP”构式[J]. 汉语学习(02), 2018:44-54.

[17] 陈曦, 牛迎春. 基于认知理论的汉日“M+D+N”结构对比研究[C]. 汉日语言对比论丛, 2018a.

[18] 陈曦, 牛迎春.「指示詞＋名詞」構文による感情・評価表現の中日対照—「そんな」、“这种/那种”を中心に[J]. ことばの科学(32), 2018b:79-96.

[19] 殷志平. 从互动看“这/那种”的功能[J]. 语言研究集刊(01), 2019: 29-46.

[20] 丁健. 语言的“交互主观性”—内涵、类型与假说[J]. 当代语言学(03), 2019:333-349.